

沖縄語 かわら版

沖縄語を話す会会報

第7号

2006年3月31日発行

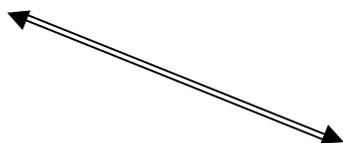
会長 城間 朝昌

事務局（編集室）

〒215-0031

川崎市麻生区栗平2丁目2番9-303

hasama-s8@lime.ocn.ne.jp 國吉 真正



「沖縄語を話す会」

ホームページ開設

ホームページ <http://www.wwq.jp/p/>

「おきなわご沖縄語を話す会」 ちち月に二回 たけんあち集まてぬ勉強会、びんちよーい品川ぬ大崎をて

・ わらび童ん達と ちやーラジオ たいそー体操さびら-----仲門勇市

・ さんしんなら三線習てぬ うむくと思事-----杉山一美

・ おんせん温泉をて そーち正月ぬくたんで のー治し-----座覇光子

- ・ 会報に出てきた語句の説明
- ・ 会報の表記について その
- ・ 事務局から

染料インクを使用しています。水濡れにより、変色したり印字がにじみますのでご注意ください。

わらび ちゃー たいそー
童ん達とラジオ体操さびら

仲門勇市 (那覇市)

くじゅ なち くと
去年ぬ夏ぬ事やいびーん。童ん達が夏休みんか

い いちからー、がっこー なー どくる いっぺーいちゅ
い入っちからー、学校ぬ庭そーな所をて、一杯勢

い 持ち、わらび ちゃー ぐー ち はねー ちょー
い持っち、童ん達あびー声ぬ聞かりて、華ーちょー
いびーたん。

ある日ぬ事やいびーしが、まー がっこー なー
ある日ぬ事やいびーしが、何処がなぬ学校ぬ庭を

てー、とすい ちゃー
てー、年寄ぬ達とまじゅんゝりきさっし、「ラジオ

たいそー
体操」んかいうみはまとーいびーたん。

んめー、たんめー達と孫ん達がーちぬごー作て、

い ーとっし たいそー ちゅ ちゃーよーしえ うたげ ねー
言ーとっし体操そーる人ぬ達様子ー、疑ーや無ー

らん肝ゝ成いびたん。

く ぐる わらび ちゃー まちげ くと うふ
此ぬ頃んしえー、童ん達ゆいりに間違ー事ぬ多く

成とーいびーしが、く ばす
成とーいびーしが、此ぬよーな場所をて、「ラジオ

たいそー ちゅ ちゃーよーしんー ぬー
体操」そーる人ぬ達様子見ちょーいびーねー、何ん

ちあぬ如ーる間違ー事ぬ起くりーがやーんち、わか
ちあぬ如ーる間違ー事ぬ起くりーがやーんち、解い

ぐり さいびーん。いっちん う ちむ や な
苦さいびーん。一件ぬ起くりーるかーじ肝病で成い
びらん。

まくど ぐーど
誠に手取いがちー、ゝりきさそーる様子ー、今

わし やーにんじゅ はな ぐり まくくる
忘らりーがたーそーる、家人衆ぬ離り苦さる真心ぬ

ん かり 変ーいる しがた
生まれ変ーいる 姿やいびーん。

「ラジオ体操」んかい此ぬよーなまぎさる ちから
「ラジオ体操」んかい此ぬよーなまぎさる 力ぬあん

て 言しえー、しん 信じらんあたぬ思いやいびーん。

ぬー やーん ちゅ ちゅ 夏休みびけーんやてん、此ぬ
何やてんくーやてん、夏休みびけーんやてん、此ぬ

よーな「ラジオ体操」さーに親子触合、隣触合、う
よーな「ラジオ体操」さーに親子触合、隣触合、う

りから、どしびれー
りから、同士触合ぬたつたつた増し成て行ちゆし願

いがちー、くじゅ なちやし
いがちー、去年ぬ夏休みーゝりきさっし暮らさび
たん。



さんしんなら うむくと
三線習てぬ思事

杉山一美 (藤沢市)

わ 我んねー、くまもと へん す ち ち むぬ
我んねー、熊本をて、生まれ育だち来やる者どやい

びーしが、んかし てー ちゅ あっ ないむんなら
びーしが、昔から手んかいは持っち歩かりーる鳴物習

い ぶ
い欲さいびーたん。

フランス語んかいん ずーみ
フランス語んかいん趣味ぬあいびーたくどアコーデ

ィオンどか、うりから しゃみせんなら ぶ うむ
ィオンどか、うりから三味線習い欲さんて思とーい
びーたん。

やいびーしが、うぬアコーディオノー へんぶ
やいびーしが、うぬアコーディオノー重さぎさんあい、

また何がやらピアノぬ ちしな ね らん わ
また何がやらピアノぬ嗜みぬ無ーらん我んにんかえ

ー、むち はし う 怖じとーいびー
ー、難かさる筈やいびーくと、いゝ怖じとーいびー
たん。

うむ 思とーたる通い、ち しんでーわし ぶか ちむ
思とーたる通い、聴ちゅ次第忘らんあたぬ深く肝

んじゅ 動かさつとーたる、つがるしゃみせん くと ちむが
動かさつとーたる、「津軽三味線」ぬ事んかい肝掛い
そーいびーたん。

やいびーしが、わ ろと ずーみ
やいびーしが、我ん夫ーダイビングんかい趣味ぬあ

いびて、いしがきじま い ちゅ ばー うふ な
いびて、まじゅん石垣島んかい行ちゆる場ぬ多く成

て、かじかじ遊びーが行じよーいびーん。

ある日ぬ事やいびーん。藤沢ぬ「ミニコミ誌」ん

かい五木田先生ぬ記事見ー出じゃち、先生んかい電

わ話うさぎやびたん。

うりから先生と御縁ぬあいびて、三線習いる事成いびたん。

言ーにん及ばん、初みて五木田先生達前寄りたる

場ねー、大節と端唄ぬ有んでぬ事やちょーん解いびらんたん。

今ー、三線習いる事ー、一杯のりきさいびーん。

ちっと、歳取たる場ねー、今やかなーふん習たる事ぬ

宜さんでる時ぬ来ゆーんねーさびーん。

唄三線習いる場ねー、うぬ大節習いる者どっしえー、

言ーにん及ばん、沖縄んかい御縁ん無ーんたる我ん

にんかえー、「沖縄ぬ肝心、うりから言葉いふやて

ん習いる事ー、何時か今やか三線弾ちゆしが上手成

たる時ねー、うぬ肝心ん解いがちー物んかい悟て、

志情き込みて唄いる事ぬ成いん。」で言ち、ちゃー

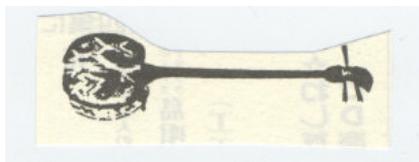
五木田先生や習ーしみしえーびーん。

例れー、英語ぬ唄やてん、シャンソンやてんカタカ

ナびけーんし覚て肝合ん解らん如唄いねー、物んか

い悟て、志情けー込みらんあい、人ぬ肝動かすし

えー、難しー事ーあらんがやーんで思とーいびーん。



温泉をて正月ぬくたんで治し

座覇光子（川崎市）

正月一、女ぬ達や忙さいびーたくと、年明き

て正月ぬ三十日一、正月ぬくたんで治しと和合兼

にて、温泉んかい行ちゆる事意込まさびたん。

十五人揃て、冷ーさる冬ぬ一日や温泉んかい入っ

ち、温たまやびたん。

うぬ後一、活計噛て、あんしから、ダンスとかカラ

オケしー欲さしえー、ダンスさいカラオケ唄たいっし、

見じ欲さる人ー見ち済むい、な一、一杯のりきさ

る一時やいびーたん。

初みてのりーちえー挿なびたる隣ぬ男ん達とんま

じゆん舞たい、唄たいっし笑ーかんで、うぬ日送や

びたん。

近頃一、胸一人暮らしとか二人暮らしぬ、ちねー

ぬ多く成て、人どぬ関わりぬいきらく成とーいびーん。

くん如っし集まで、まじゆん物噛たい、弱さる立場ん

かい置かっとーる人ぬ達とん互に肝どやーすんで

ぬ事一、一杯増しやんで言ち皆嬉さそーいびーたん。

「沖縄ん人一、強ばーあらんとー成らんどー。此ま

んじえー、あんさんだれ一生ちちえー行からんどー。」

んで言ち、勇みゆる声ん聞かりて、互に「頑丈や

み。」んて声掛きて、一杯ばー場所成とーいびーたん。

またのりーちえー挿なびら。

会報に出てきた語句の説明（沖縄語辞典による）

- 一杯^{いっぺー}：たいそう。非常に。たいへん。
- 勢^{いぢゅ}い：勢い。勢力。
- 華^{はね}ーちゅん：色つやが美しく出る。にぎやかになる。にぎわう。
- 何処^{まー}がな：どこか。
- まじゅん：一緒（に）、共（に）
- あーりきさん：面白い。楽しい。
- うみはまゆん：はげむ。熱心に努力する。
- ごー：輪。
- 言^いーと：労働の時のかけ声のこと。
- 肝^{ちむ}あー：心強い。
- ゆい：ゆえ。せい。
- 間違^{まちげ}一^{ぐと}事：(道徳的に)間違ったこと。
- 一件^{いっちん}：事件。一件。
- あぬ如^{ぐと}ーる：あんな。あのような。
- かーじ：つど。度。たびに。
- 肝病^{ちむや}むん：心を痛める。
- ～がたー：～しそう。まさにそのことが起ころうと
しているさま。
- ～苦^{くり}さん：～しにくい。～しがたいの意の接尾辞。
- 何^{ぬー}やそんくーやそん：どうあろうと。ともあれ。
- ～びけーん：ばかり。
- ～触^{びれー}合^{とないびれー}：付き合い。(隣触合：隣との付き合い)
- たつたつた：次第次第に。
- ～がちー：ながら。つつ。
- 増^まし：まし。一方よりまさること。
- 鳴物^{ないむん}：楽器の総称。
- 何^{ぬー}がやら：どうしたのか。
- ～ぎさん：～そうだ。～らしい。(重^{かさ}さぎさん：重
そうだ)
- い^いふい：少し。(い^いふいー怖^うじゅん：少し怖じる)
- 怖^うじゅん：怖じる。こわがる。恐れをなす。
- あたい：くらい。ほど。
- 肝^{ちむが}掛^がい：心掛かり。気掛かり。
- かじかじ：たびたび。
- うさぎゅん：押し上げる。ささげる。差し上げる。
- 言^ゆーにん及^{うゆ}ばん：言うに及ばぬ。言うまでもない。
- 大^{うふうし}節^し：大節の意。(御前風節など)
- 端^{ふーうた}唄^{うた}：端歌。俗謡。
- ～ちょーん：すら。さえ。
- ちつと：きつく。強く。しっかりと。きつと。
- ～やか：より。比較の時使う。
- な^なーふん：もっと。さらに。なお。一層。
- ～ねー：(～する)ように。(～した)ごとく。
- 前^{めー}：様。尊敬の意を表す接尾辞。
- 寄^ゆしりゅん：参る。訪問する。
- 物^{むぬ}んかい悟^{さと}ゆん：物に感づく。
- 志^{しな}情^さき：なさけ。思いやり。また、男女の愛情。
- 肝^{ちむえー}合^え：意味。わけ。理由。
- くたんてい治^{のー}し：疲れを治すこと。慰労。
- 和^{わご}合^ご：和合。仲良くする。
- 意^{いく}込^こますん：意気込んで企てる。
- あーちえー^{そが}拝^がむん：お会いする。お目にかかる。
- ちねー：家庭。家族。
- 肝^{ちむ}どやーすん：心を整える。心配事を処理して心を
安んずる。
- 活^{かつちー}計^ち：ごちそう。
- 勇^{いさ}みゆん：励ます。慰めて励ます。
- 強^{ちゅー}ばー：強い者。

会報の表記について その①

これまで発行してきました会報は、沖縄文字を使用して表記しておりますが、表記などについてご質問をいただきました。

今回から、会報を編集するにあたり表記の基本的な考えを整理していきたいと思っております。

従来の表記

これまでの表記を新聞紙上や、市販されている書物などで見ますと、沖縄語の独特の発音は五十音を組み合わせで表記されています。

このような表記では、初めて沖縄語を学ぶ方々へ発音を伝えるのに苦労します。組み合わせに原因があるように思います。

この会報では、数字や漢字にはすべて振り仮名を付けるようにしていますが、組み合わせで表記して振り仮名を付けると、さらに読みづらくなります。

例(1) ^{をうとう}
夫

この例はよく見られる表記です。沖縄語を知っている方は正しく発音していますが、これから初めて沖縄語を学ぶ方は文字通り「をうとう」と読むようです。

沖縄文字の使用

沖縄文字は従来のように文字の組み合わせを不用とし、一文字で表記できるのが特徴です。

例(1)は沖縄文字で表記すると次のようになります。

^{をど}
夫

即ち、「をう」という組み合わせ文字を「を」という一文字に置き換えて組み合わせをしないで済むわけです。

沖縄文字の読み方は、巻末の「沖縄文字一覧と用例」にありますように沖縄語辞典による読み方で示してあります。

「沖縄文字一覧と用例」で[?]、[‘]の記号がありますが、[?]は声門を閉じておいて急に開いて発音することを示しております。即ち声門破裂音を示します。また[‘]は声門破裂音のないことを示します。

五十音の「を」は[‘o]と読みますが、沖縄文字の「を」は[‘u]と読みます。

そして「とう」という組み合わせ文字は「ど」という一文字に置き換えて[tu]と読みます。

従いまして「夫」は「をど、‘utu」と読みます。

声門破裂音「?’」を使う例として「豚」がありますが、沖縄語では「あー」と書いて[?waa]と読みます。

また「夫」のことを声門破裂音で「うど、?utu」

という人がおりますが、「音」と間違いますので、

「夫」は「をど、‘utu」で「音」は「うど、?utu」とはっきり区別して発音しなければなりません。

発音の練習のために、巻末にある「沖縄文字一覧と用例」の中にある語句を、声を出して読んでみましょう。

事務局(編集室)國吉(眞)

事務局から

今回も貴重な話題を寄せていただき、ほんとに有難うございました。

今回は那覇市在住の仲門勇市さんから貴重な原稿を寄せていただきました。彼が夏休みに子供たちとラジオ体操をしていたのが、目に浮かびます。

杉山一美さんは五木田師範のところで、三線を習っておられますが、沖縄の肝心がわかって情感を込めて唄えるようお祈りしております。貴重なお話有難うございました。

正月休を利用して温泉へ行かれた座覇さん達は、素晴らしい出会いがあったんですね。温泉旅行の雰囲気伝わってきます。有難うございました。

今まで発行してきました会報では、どのような考えで表記しているのか、あまり触れませんでした。今回から例を挙げて表記のやり方について説明していきたいと思っております。

また会報に出てくる語句がわからないと言う声がありましたので、今後は語句の説明も入れていきたいと思っております。

多くの方々に私どもの活動を知っていただくため、ホームページを開設いたしました。今後は内容充実を図っていききたいと思います。

会員以外の方も沖縄の言葉に関心がありましたら是非寄稿されるようお願い申し上げます。

沖縄文字への変換は事務局で行います。また原稿は趣旨を変えないで手直しをする場合がありますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

そして大変恐縮ですが、原稿料はお支払いできませんので、会報を寄贈して薄謝に代えさせていただきます。

お問い合わせ

事務局 國吉 眞正 044-988-8065

FAX 044-988-8065

沖縄文字一覧と用例

赤い字はこの号で使った字です

と[tu] とい(鳥) うと(音) みと(夫婦)	と[hwe] とー(南) にとーでーびる(有難うございます)
と[to] とーふ(豆腐) とーばる(桃原)	へ[he] へい(おい「目下への呼びかけ」)
ど[du] どし(友人) やど(宿) どー(自分)	や[?ja]* やー(君、お前) やん(言わない)
ど[do] どーぐ(道具) まんどーん(たくさんある)	や[ja] やー(家) やん(である)
て[ti] てーち(一つ) てーだ(太陽) てん(空)	ゆ[?ju]* ゆん(言う)
て[te] てーく(太鼓) てーしち(大切)	ゆ[ju] ゆんたく(おしゃべり)
て[di] てーび(筆) めーびー(喉) てきやー(秀才)	よ[?jo]* よーいー(おさな子)
で[de] でーじ(大変なこと) ちょーでー(兄弟)	よ[jo] よーんなー(ゆっくり)
か[kwa] かじ(火事) かちー(ごちそう)	わ[?wa]* わー(豚) わーちち(天気)
か[ka] かじ(風) かんない(雷) かーま(遠方)	わ[wa] わーむん(私のもの)
か[gwa] にんかん(念願) かんく(頑固)	わ[?wi]* わー(上) わーりきさん(面白い)
が[ga] がんちょー(眼鏡、めがね) しがた(姿)	わ[wi] わきが(男) わなく(女)
か[kwi] かー(声) さっかー(咳) かゆん(呉れる)	か[?we]* かーきー(金持ち) かんちゆ(ねずみ)
き[ki] きー(木) きゆん(蹴る) きぶし(煙)	か[we] ういかー(お祝) わじゃかー(災い)
か[gwi] かーく(越来「地名」)	か[?N]* かみ(梅) かに(稲) かなじ(うなぎ)
ぎ[gi] かーぎ(容ぼう)	か[N] かに(胸) かみ(嶺井「地名」) かなど(港)
か[kwe] かー(鋏) からじかー(髪きり虫)	い[i]* いん(縁) いだ(枝)
け[ke] けー(かゆ) ちけー(使者)	い[?i] いん(犬) いーび(指) いちゆん(行く)
か[gwe] かったい(ぬかるみ)	か[u]* かど(夫) かーじ(さとうきび)
げ[ge] げー(害) にげー(願い)	う[?u] うと(音) うーび(帯)
か[hwa] かー(葉) なーか(那覇)	え[e]* えーま(八重山) えーじ(八重洲)
は[ha] はる(畑) はぎもー(荒地)	え[?e] えーさち(あいさつ) えーじ(合図)
か[hwi] かじやい(左) かーと(いるか)	お[?o] おーじ(扇) おーさん(青い)
ひ[hi] ひやみかすん(えい、と言う)	を[o] をーじ(王子) をーれー(往来)

[]内は沖縄語辞典による読み方

(自由使用とされていますので、使用許可は要りません。)

* は単語の語頭だけに用います。語頭以外では用いません。

例 とい(鳥) ×とい

音の出だしに、僅かに i をひびかせます。